

今日の キャンペーン

結核予防は主婦の手で

最近、九州地方では結核死亡率が高いということが問題にされています。別表の様に昭和三十九年は、熊本県は大分県と同率で一位になっていることが判りました。何故九州には結核死亡者が多いかということについては、専門家の意見もいろいろとありますが、少なくとも、結核に対する関心、認識が低かったということとは否めない事実です。

昭和三十九年の熊本県の新発見率は人口十万人に対して三五一人と全国第五位、有病率は一・五％と全国第四位で、目立って高くなっています。ここで一つ「はまり直さない」と、熊本県はいつまでも結核に悩まされねばなりません。

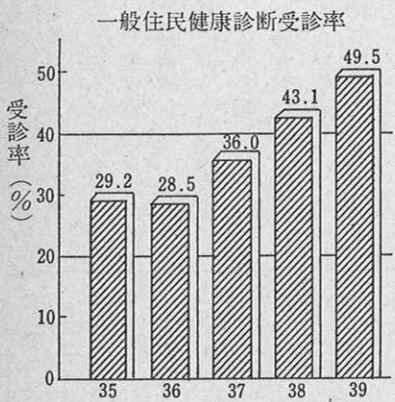
先づ、結核は治療法の進歩によってなおるようになったものの、病気にかからないことが第一です。家庭は結核が最もうつりやすい所ですから、家庭で病人が出たら一人残らず健康診断を受け、他に病人がいなければ確かめ、家族にうつるのを防ぐことが大切です。又乳幼児や学生、三十才未満の人はツベルクリン反応検査をして、陰性、疑陽性のときはBCGを接種して結核に対する免疫力をつけて下さい。若い年齢層での患者発生は減少、結核死亡率の減少は昭和十七年から行なわれてきたBCG接種の効果だと言えます。

一回健康診断を受けるよう定められていますが、学校、大企業、官公庁以外の市町村長の責任で行なわれる一般家庭や農漁村の方の健康診断は未だ半数以下にとどまっています。一部には一〇〇％に近い所もあり、実施率が低い市町村の奮起が望まれます。又発見された病気は、最初の治療で徹底的になおして欲しいのです。よほどの重症でない限り、確実になおるといっても、不十分な治療では、かえって薬に抵抗力のある菌を作り、本人だけでなく、その菌で感染した人の治療も非常に難しくなっています。経済的な負担も少なくありませんが、結核予防法により病状によって半額或は無料で治療を受ける道がひらかれているので、主治医の先生、或は保健所の指導を受けて正しい治療を続けて下さい。更に保健所では、結核患者を登録して、完全になおしてゆくために、治療を中止している人、

長期間病状が判らない人の健康診断を行ない、受療の促進、再発防止に努めると共に、家族の健康診断を行なっているの、大いに利用して下さい。市町村や保健所の保健婦もその仕事の大部分を結核をなくすために費しています。気軽に皆さんの疑問を投げかけて下さい。病気にかかるのはあなたです。実態調査では五十人に一人の結核患者がいることになっていますが、熊本県ではもっと多いと思われれます。あなたがその一人でないとは言えません。

毎年の健康診断を欠かさず受けましょう。家庭の中に病人があるということは不愉快なことです。県下の婦人方が、家庭の健康を守ろうと立ち上られました。結核県熊本の名をそぞろ日一日も早く来ます様に県民一人一人のご協力をお願いします。

(保健予防課)



	S.37	S.38	S.39
国	29.2	24.2	23.5
福岡	36.8	28.9	31.6
岡	39.2	36.1	33.9
賀	42.8	36.2	32.1
崎	39.3	33.9	34.9
本	41.2	37.2	34.9
分	45.3	31.4	30.3
崎	39.9	34.8	34.4
島			
全			
福			
佐			
長			
熊			
大			
宮			
鹿			

○内は全国順位

薬を正しく使おう

戦後のペニシリンがまるで宝石のように貴重だった時代から二十年。いまや、私たちのまわりには薬が氾濫している感があります。それだけに私たちは、薬についての知識もかなり身につけたとも思われますが、実は、案外正しい薬の使い方、認識されていないのではないのでしょうか。

先づ薬を買われる時は、清潔な店で、いつも薬剤師や薬の専門家が店にいて皆さん方の話をよく聞いて、相談できるお店で買われるとよいと思います。薬の宣伝をうのみにすることのないように慎重に使用して下さい。

こうして自分で納得のいく薬を買われましたならば、服用量を正確に守って下さい。薬は一定量にならないと目的の効果を発揮しませんが、逆に沢山飲めばよく効くという考え方も危険です。沢山飲んだために、副作用が出たり、危険な場合もありますから説明書をよく読んで下さい。例えばビタミンB₁は一度に大量に飲んでも害はないと思えますが、必要量以上は尿などから排出されて無駄になります。「毒と薬は紙一重」で、量を間違えると危険です。

次に薬の服用時刻をよく守りましょ

う。薬はその作用によって飲む時がきまっています。例えばスルファミン剤や抗生物質などは血液中の濃度を一定に保つために四時間毎か、六時間毎に飲むようになっている薬があります。又胃壁を刺戟するような薬は食後三十分位して飲むなど、服用時刻を守って初めて薬の効果が十分發揮できます。薬を飲む時は、水かお湯で飲みます。お茶などで飲みますと、お茶の成分と薬の成分が化合して効果が少なくなったり、なくなったりすることがあります。

水薬を飲む時は、よく振って、一回分だけ別の器に取って飲むようにしないと分量が不正確になったり、薬が腐り易くなります。

軟膏を使う場合は、直接汚れた手指等で塗りますと、患部が汚染されて化膿することがあります。それと共に軟膏も汚れた指を入れたために汚染されますので、消毒したヘラなどで取って手指はよく洗って塗って下さい。

次に薬の保管については、有効期限のあるものは期日を確かめて下さい。それと光線で変化したり、湿気を吸収して変質する薬がありますから、直接光線の当たらない、湿気のない所に置きます。又古く

近視とトラコーマ

昭和三十九年度熊本県小中学校児童の眼疾調査では、全児童の六七％がトラコーマ、結膜炎等の疾患があり、又、近視は小学男子で四七％(一年から六年まで)、女子で五九％、女子が一〇一四％となっています。

トラコーマは最近では衛生思想の普及と抗生物質の出現でかなり少なくなりましたが、農山漁村ではまだまだ多いところがあります。トラコーマにかかると、はじめ眼瞼の結膜が赤くなり、表面がザラザラして次に灰色の麻の束ぐらゐの粒ができ、結膜が肥厚し、だんだんと眼脂も多くなり、遂に角膜が濁って、視力も次第に弱くなってきます。失明者の一〇一五％がトラコーマによるものであるとされています。予防法としては

- 1、学校で組織的な健康診断を実施する
 - 2、家庭や学校などでハンカチ、手拭、タオル、洗面器などの共用をしない。
 - 3、外出先から帰ったら必ず手を洗う。
- などが考えられます。

て飲んだ例もあります。言葉たくみに売り歩いている薬や、大道人の薬は買わないことです。とんだつかませ物と思つて間違ないでしよう。(薬務課)

我が国は世界における近視国で、メガネをかけカメラを携えて歩く国民とまでいわれています。近視の原因はいろいろ考えられますが、眼の酷使が重要な原因となっているようです。近視を防ぐためには

- 1、姿勢を正しくする。
- 2、適当な照度で本を読む。
- 3、ビタミン等の欠乏に陥らないよう栄養を充分とる。
- 4、眼に充分休養を与える。

ということが必要です。

生れながらの失明は仕方がないとしても、折角立派な眼をもって生れながら、不注意により失明することはまことに残念なことです。

秋のさ中の十月十日は「眼の愛護デー」とされていますが、澄みきった秋空のような眼をいつまでも持ち続けるため、お互いに眼の有難さを再認識し大切にいたしましょう。(環境衛生課)